

社会教育施設（青年の家、二上まなび交流館）現地視察について

1 趣旨

「高岡市教育将来構想検討会議」において社会教育施設の今後のあり方を検討するうえで、施設の現状等について理解を深めるため、検討会議委員を対象に視察を実施するもの。

2 実施日

平成 30 年 6 月 1 日（金）

3 視察施設

- ・青年の家（高岡市江尻 1321-1）
- ・二上まなび交流館（高岡市二上 20-1）

4 出席委員

7 名（社会教育・生涯学習小委員会 4 名、学校教育小委員会 3 名）

5 委員意見（要旨）

○青年の家

- ・利用実態が「青年」とは程遠く、「部屋がたくさんある豪華な能舞台付き公民館」という印象。
- ・利用者には安価で都合がいい施設だが、受益者負担という発想が感じられない。
- ・指定管理収入（損失補填）がそれほど多くないため、利用料収入の増加、人件費を中心とした管理費の削減などの努力を行うことで、収支均衡にすればまだ使える。
- ・能楽堂ホールは座席等の修繕が終わっていたが、どのような計画のもとに修繕したのか疑問。
- ・今後の経費を考えると廃館も仕方ないのか、もしくは受益者負担を増やすなどして存続できないのか、もっと広く広報して活用する努力をしてはどうか。

○二上まなび交流館

- ・解体費用に 2 億円掛かるという試算がある以上、当面の延命措置は必要。
- ・場所の利点を生かす活用法を考え、受益者負担を求められる客層にシフトすべき。
- ・登山道のバリエーションも豊富である二上山の魅力を前面に出し、健康志向の中高年の活動拠点とするなど、ターゲットを子ども中心から中高年へ移してはどうか。
- ・利用料が今の時代にあっていないのでは。

○共通事項

- ・営業努力が見られず漫然と経営していることが挙げられる。利用者増や客単価の高い層の呼び込み、指定管理収入の削減といった努力はしてこなかったのではないか。
- ・指定管理者を民間にシフトし、収入増や赤字削減に係る努力が必要。
- ・赤字削減に係る努力が無いまま、施設を閉鎖することは無責任。
- ・閉鎖するにも解体費用が掛かり、厳しい財政状況では即時廃止・解体は難しいと考えられるため、当面の間、営業するにも赤字の削減に努める必要がある。
- ・両施設とも施設の更新はできないが、壊すと二度と作ることができないということも考慮すべき。
- ・耐震補強が完了しており、今後も十分使用可能という印象。

